

平社青年同盟幹部との策動に依り常に過激なる左翼闘争を展開し、所謂三、一五事件に組合幹部の關係者檢舉され、且つ右編佐聯合會に改進黨後も再び四、一六事件に幹部が檢舉收容されたるか如き状態にして、昭和六年三月の全農第四回大會後は争議部長石田樹心等會議派の結成運動を行ひ同年十月總本部中央委員會に於て除名さるゝと共に編佐聯合會の解散指令を受くるや昭和七年一月會議派支持反本部態度を聲明し、其の運動は漸次非合法に轉向して行つたので、或は鳥栖警察署襲撃事件（昭和六、七、二四）や地主襲撃事件（昭和七、一、六、出川郡金川村小作争議）の如き行動に出たのである。

かくの如き非合法的行動の爲常に多数の犠牲を拂ひつゝあるが、一方常に再進運動に努め本年五月青年部を創立し前衛隊となし、十月には年次大會を開催して十一地區の確立

を決議し次第に其の結成を見つゝあり、かくて昭和七年中四支部一ヶ班二地區の結成成り且つ昨年に比し組合員の増加を示してゐる。

而して同年中本組合の指導に係る争議四十四件に及び其の闘争手段は常に大衆行動を目標とし危激なアチアチの戦術に出で尖鋭化し其の地下運動と共に將來注目すべき状態にある。

b、全農福岡縣聯合會（總本部派）の結成

左翼編佐聯合會と右翼日農九州同盟會との中間に介在した筑後農民組合、北豊前農民組合は何れも勢大黨を支持しながら其の間に何等の連絡なく各々單獨組合として左右兩派に壓迫せらるゝの情勢にあつたので、京都都府行動出身全農本部長山原春次は兩組合を併合し縣聯合會を組織せしめ全農